

COG2025 応募内容確認書

ID	16-10-1
自治体名	神奈川県横浜市
自治体提示地域課題	公民連携による横浜版地域循環型経済 (サーキュラーエコノミーplus)の推進
チーム名	イエループYOKOHAMA2025
アイデア名	サーキュラー・イエロー・プロジェクト
チーム属性	混成：市民と学生()の混成チーム
チームメンバー数	10超()
代表者	小賀坂 小春
メンバー(公開)	小賀坂 小春, 萩原 達也, 伊藤 貴史, 田中 涼太, 濱 芳宏, 河原 英信, 井上 昌司, 鈴木 賀津彦, 内田 奈津子, 安部 萌愛奈, 岸 天音

【確認事項】

- <応募のPDFファイル名と送付先> 確認しました。
- <応募内容の公開> 確認しました。
- <知的所有権・肖像権> 確認しました。問題ありません。

チーム名：イエループYOKOHAMA2025

アイデア名：サーキュラー・イエロー・プロジェクト

該当する自治体名：横浜市

自治体提示の地域課題：

公民連携による横浜版地域循環型経済
(サーキュラーエコノミーplus) の推進

1. アイデアの全体像(What)

1.1. 提案するアイデアのあらまし

サーキュラー・イエロー・プロジェクトは横浜市泉区内の休耕地等を活用し、障害者や高齢者、子ども・若者などあらゆる世代が参画して、菜の花と向日葵を栽培する活動を広げて行く取組です。そして菜の花と向日葵の開花後には、それぞれの種から油を搾り、バイオマスとして区内の家庭や事業所などで様々な用途で活用します。併せて植物由来の廃食油を回収・循環させる取組を小中学校と地域団体、企業が連携し、泉区内で展開することにより、区域全体で「景観向上×にぎわい創出×脱炭素×資源・エネルギー循環×生きづらさを抱える市民の就学・就労支援×地域のつながりづくり」を一石六鳥で同時に達成して行きます。

この取組により、横浜市泉区を地域の誰もが、やりがいを感じながら社会・経済活動に参加することで、一緒に成長し合いながら、大都市でもエネルギー自給率 100%を目指す「Grow Together City 100」（地域の多様な主体の共創によって実現するエネルギー自給率 100%都市）として生まれ変わらせます。また「GREEN×EXPO 2027」を契機に、この泉区の取組を横浜地域全体に、そして神奈川県域へ、さらに全国へと広げて行きます。

1.2. 提案するアイデアの内容 (5W1H)

本提案のアイデアは、以下の7組織によって構成されています。各組織のそれぞれの思いを含めて示します。

- 下和泉小6年生一同：廃食油を集めて蝋燭をつくり、その売り上げで地域住民のみんなの力で走らせているEバスを盛り上げたいです。
- (株)共創：地域団体、学校や行政と連携しながら、廃食油を地域で循環させていく仕組みをつくりたいです。
- (社福)開く会：農業や園芸を通じて障がい者や生活困窮者が生き生きと働くことのできる機会や場を生み出していきたいです。
- 農家・横浜市議員：人口減少と高齢化に直面する大都市郊外において持続可能な農業とまちづくりの仕組みや制度を創りたいです。
- 泉区中田地区経営委員会：泉区中田地区を日本一気候変動に取り組んでいる地域にしたいです。
- 横浜なかだTV：市民メディアを通じて、泉区内で「Grow Together City 100」に向けた取組を、つなげ、発信して行きたいです。
- フェリスチーム：大学がある泉区で住民、市民団体、企業、行政など多様な主体の思いを重ね合わせ、ONETEAMとして「Grow Together City 100」を実現したいです。

提案するアイデアの構造を次ページに示します。

私たちチームの共通のモチベーション

2011年に発生した東日本大震災によって、私たちは原子力に電力を依存することの恐ろしさを知りました。また気候変動による自然災害が頻発する中で、私たちは化石燃料（石油・石炭・天然ガス等）に日々のエネルギーを委ねてしまふことの限界も知りました。そして2015年に国連が採択したSDGsを号砲として、風力や太陽光など再生可能なエネルギーへの転換を進めてきました。ところが昨今の「メガソーラー問題」の勃発により、再生可能なエネルギーの推進と地域の景観・環境の保全が相剋する場合があります。のだと知ってしまった私たち。一方で海外から輸入する化石燃料は高騰し続け、また災害や戦争によって、いつでも化石燃料の輸入が途絶え、日々の暮らしが立ち行かなくなるとのリスクに直面し続けている資源小国・日本に暮らす私たち。だからこそ、この地域に暮らすみんなが力を併せ、植物の力によって大都市・横浜に地球と共生する油田を生み出し、環境に優しいバイオマスを地域の隅々まで循環させることで、私たちの街に暮らす誰もが生き生きと学び・働く機会や場を生み出していきます。

アイディアに先行する取組 1

横浜市立下和泉小学校の「Eバス」応援プロジェクト

下和泉の住民がみんなですらえ続けるコミュニティバス「Eバス」を3年前から応援している下和泉小の6年生児童。彼ら彼女らが地域の誇りであるEバスをより多くの人たちに知ってもらうために始めた家庭や学校で出る廃食油を回収し、その油を活用してEバス宣伝用の蝋燭を創り、販売するプロジェクト。

参考： <https://www.townnews.co.jp/0107/2024/03/28/725932.html>
<https://izumikurashii.city.yokohama.lg.jp/article/e-bus/>

アイディアに先行する取組 2

社団法人「開く会」の菜の花・向日葵Lab畑プロジェクト

農福連携に精力的に取り組む「開く会」が、泉区と戸塚区の境にある汲沢の街の休耕地をハンディキャップを持つ利用者と共に切り開き「サーキュラー・イエロー・プロジェクト」の最初の実験農場（Lab畑）として運営を始めた取組。

参考： https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/nochi/nougyou/kouhoushi/hamafoodnavi.files/0433_20220615.pdf
<https://co-coco.jp/series/work/tatsuyahagiwara/>

始まりのエリアとしての泉区中田地区

アイディアに先行する二つの取り組みを結び合わせ、廃食油の回収循環と菜の花・向日葵の栽培を地域ぐるみで一体的に行うサーキュラーイエロープロジェクトの始まりのエリアとして泉区中田地区を選定。このエリアに暮らす多世代の住民が手を結び、連合自治会を中心に、このエリアで活動する多様なNPOや企業が手を結び、オール中田でアイディアの実現に向けた取り組みを進めて行きます。

地域に密着した市民メディアを通じた情報発信によって泉区全体で仲間を増やし、団体・コミュニティをつないでいきます。

「Grow Together City 100」の実現！

プロジェクトの取組成果を踏まえ持続可能な農業や園芸のための制度や仕組みを構築します。

2. アイデアの理由 (Why)

2.1. 理由のポイント

このアイデアを提案した理由は、誰もが親しみやすい「菜の花・向日葵」の栽培と市民の暮らしに身近なエネルギー源である廃食油の循環を通じて、「景観向上×にぎわい創出×脱炭素×資源・エネルギー循環×生きづらさを抱える市民の就学・就労支援×地域のつながりづくり」を一石六鳥で達成し、「Grow Together City 100」を実現することで、横浜市が掲げるサーキュラーエコノミーplusの推進に大きく寄与することが見込めるからです。

2.2. 根拠と裏付け

私たちは、横浜市の南西部に位置する泉区をモデルエリアとして選択しました。また、先行している泉区の中東部に位置する中田地区を中心に展開します(図1)。

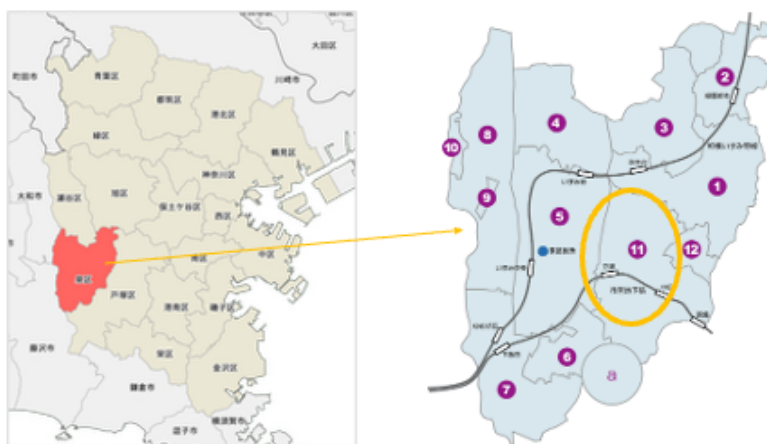
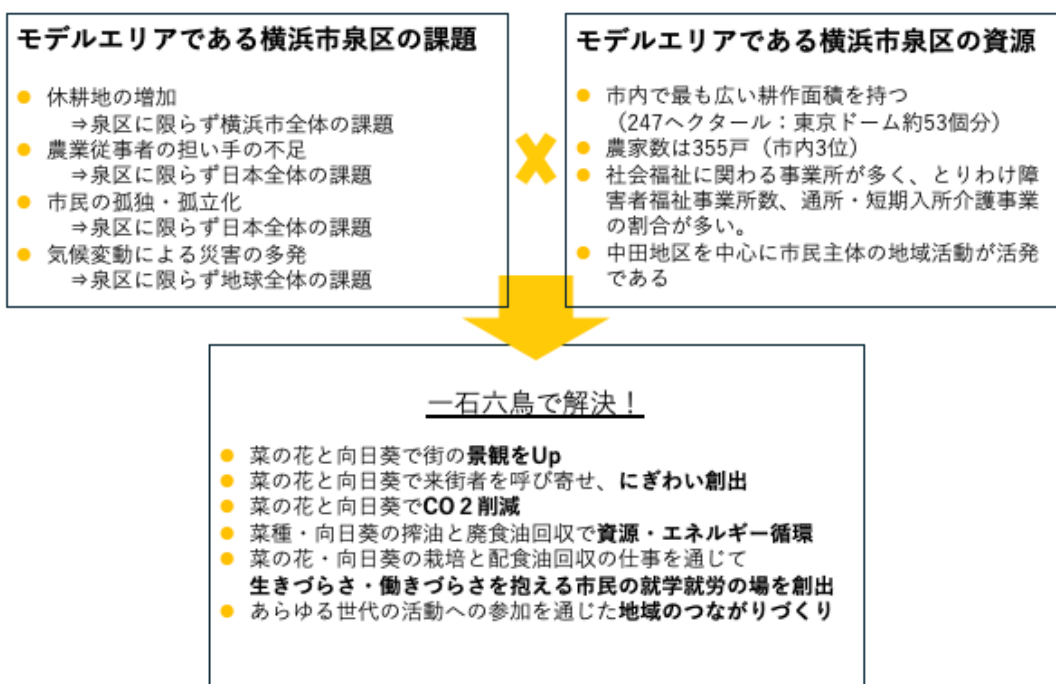


図1 1 横浜市泉区と中田地区の位置関係

横浜市泉区の課題と資源について、次に示します。



◆ なぜ、菜の花と向日葵の二毛作なのか？

菜の花と向日葵の二毛作は、同じ畑で春から初夏に菜の花を育て、夏から秋に向日葵を育てるという栽培サイクルで、景観・環境・収益の面で一石二鳥の効果が期待できる魅力的な取組です。

表 1 菜の花と向日葵の栽培サイクル

作物	播種時期	開花期	収穫期
菜の花	10～11 月	3～4 月	4～5 月
向日葵	6～7 月	8～9 月	10～11 月

また、菜の花・向日葵は緑肥として土壌改良の効果が期待できます。菜の花と向日葵を緑肥としてすき込むことで、窒素・リン酸・カリなどの土壌改良に役立つ養分が供給されます。これにより仮に菜の花・向日葵畑を他の作物の農地として転用することになった場合でも、その作物の豊かな実りをもたらすことが期待できます。

◆ なぜ、廃食油のリサイクルなのか？

廃食油の回収には、環境・社会・経済の 3 つの側面で大きな意味があります。

1. 環境負荷の削減

廃食油を流しに捨てると、排水管や下水道の詰まりを引き起こし、処理能力を低下させます。また 下水道が整備されていない地域では、河川・海の汚染や生態系への悪影響につながります。また 海岸に漂着する「オイルボール」の原因にもなるとも言われています。一方で家庭から出る廃食油は年間約 10 万トンのうち、ほとんどが再利用されず可燃ごみとして廃棄されています。可燃ごみとして捨てると、焼却炉の構造によっては焼損や処理効率低下を招くと言われていました。従って廃食油を回収することで、地球・地域環境の負荷削減につながると共に、地域の自治体にとっても下水処理や焼却処理に電力やコストの削減につながる メリットがあります。

2. 資源として再利用できる

廃食油は「捨てれば廃棄物」ですが、「回収すれば資源」になります。例えば、石けん・洗剤・塗料・インク溶剤などの原料、飼料原料、脂肪酸などの工業原料として再利用できるだけでなく、このサーキュラーイエロープロジェクトが目指すように、バイオディーゼル燃料として公共バスやごみ収集車の燃料への利用や、持続可能な航空燃料（SAF）の原料としての利用も注目されています。

3. 企業・自治体の環境価値の向上

廃食油を適切に回収しリサイクルすることは、企業にとって環境貢献やブランド価値向上につながります。また横浜市のように「循環型社会の実現」を都市ビジョンとして掲げる自治体にとっても、政策の柱になる重要な取組です。

すなわち廃食油のリサイクルは、環境汚染を防ぎ、資源を循環させ、地域インフラの負荷を減らし、社会全体の持続可能性を高めるという、多面的な意義を持つ取り組みなのです。一方で、廃食油リサイクルにあたっては、回収にあたって担い手（事業者）の体力的に負担が大きい、また回収場所の確保も難しいといった課題があります。また悪質業者が、回収した油の不適切な保管によって、害虫や悪臭、酸化・腐敗の原因になり、火災の原因になるケースがあります。

さらに不法投棄や回収された油が再び食用油として、不適切に利用される「再生油」の問題などが指摘されています。

私たちのサーキュラーイエロープロジェクトでは、地域全体で廃食油循環に取り組み、リサイクルのプロセスを可視化し、廃食油の活用先を明確化することで安全・安心な廃食油の循環システムを構築します。

3. 実現までの流れ (How)

3.1. 実現する主体と必要な資源と調達方法

本プロジェクトを実現させるために、IZUMI サーキュラー・イエロー・プロジェクト実行委員会を組織します。

1.2 節で示した 7 組織で実行委員会を構成します。すでに、菜の花の種まきは終了しており、2025 年度の行事が進んでいるところです。図 2 にプロジェクトの実施フローを示します。

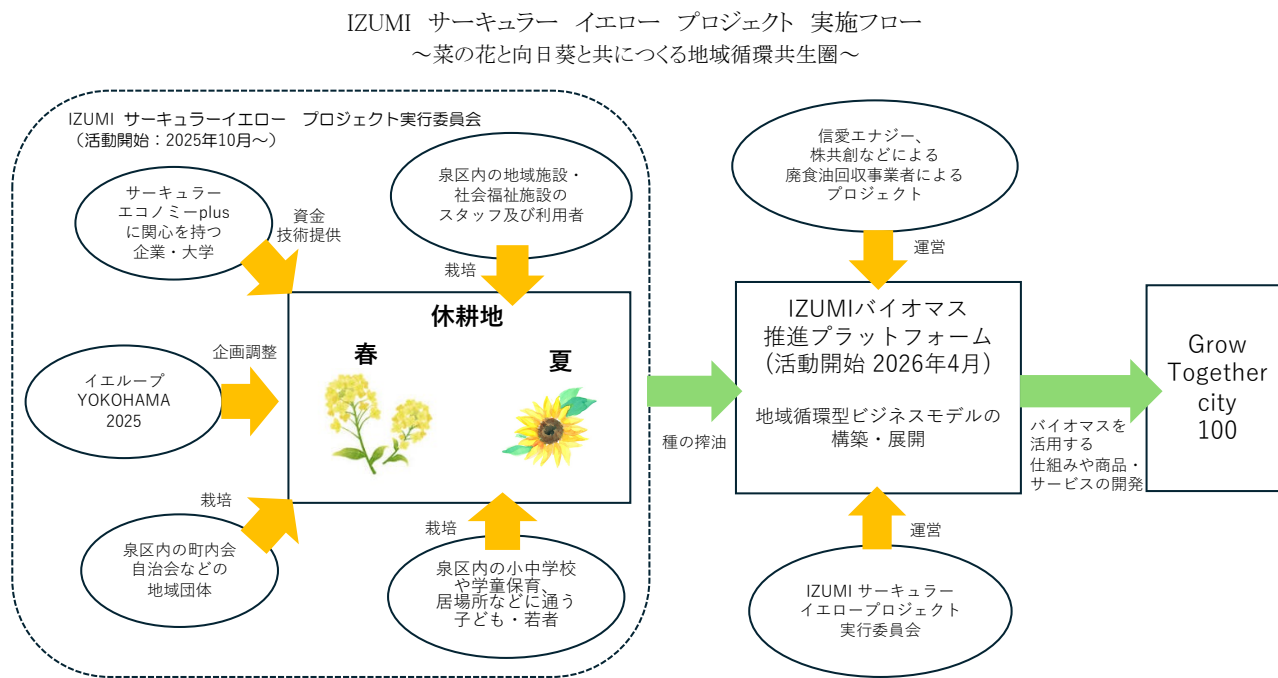


図 2 実現のための組織と実施フロー

資金調達に向けては、各組織が長年継続してきている事業に加えて、以下のビジネスモデルでの収益が見込まれます。

地域循環型ビジネスモデル (案)

1. 観光・教育との連携（アグリツーリズム）、向日葵畑を観光資源として活用（例：ヒマワリ祭り、写真スポット）。入場料、物販、体験型イベントにより収益化
2. バイオ燃料（バイオディーゼル）としての活用。向日葵の種子から油を抽出し、バイオディーゼル燃料として精製・販売。地域の農機やバスなどに使用することで、地域エネルギー自給モデルを構築。
3. 向日葵や菜の花の 茎や葉のバイオマス発電・熱利用。収穫後の茎や葉を乾燥・粉碎し、木質バイオマスボイラーやバイオガス発酵に利用。発電・熱供給により地域熱供給で収益化。
4. バイオ炭（Biochar）化と土壌改良材として販売向日葵の残渣を炭化処理し、バイオ炭として農地に還元。炭素固定によるカーボンクレジット創出も可能。

3.2. 実現までのプロセスと時間軸

●2024 年度以前

下和泉小による廃食油回収・活用

E バス応援プロジェクト

●2025 年度（実証フェーズ）

4月 3日 横浜市泉区中田地区 YouTube チャンネル「横浜なかだTV」開設

10月 11日 サーキュラーエコノミーplus フェスタでお披露目

10月 25日 開く会の LAB 畑（10a）で菜の花の種まき

11月 23日 中田かわら版 12月号「休耕地に菜の花とひまわりを！」

12月 22日 下和泉小学校での取組発表会「キャンドルフェスタ」

1月 31日 IZUMI サーキュラー・イエロー・プロジェクト実行委員会発足イベント

3月 開く会の LAB 畑での菜の花の鑑賞会

『サーキュラーエコノミーplus×EXPO』での成果発表

●2026 年度～（泉区全域へ展開）

休耕地の本格的な再生

地域の観光資源としてブランド化

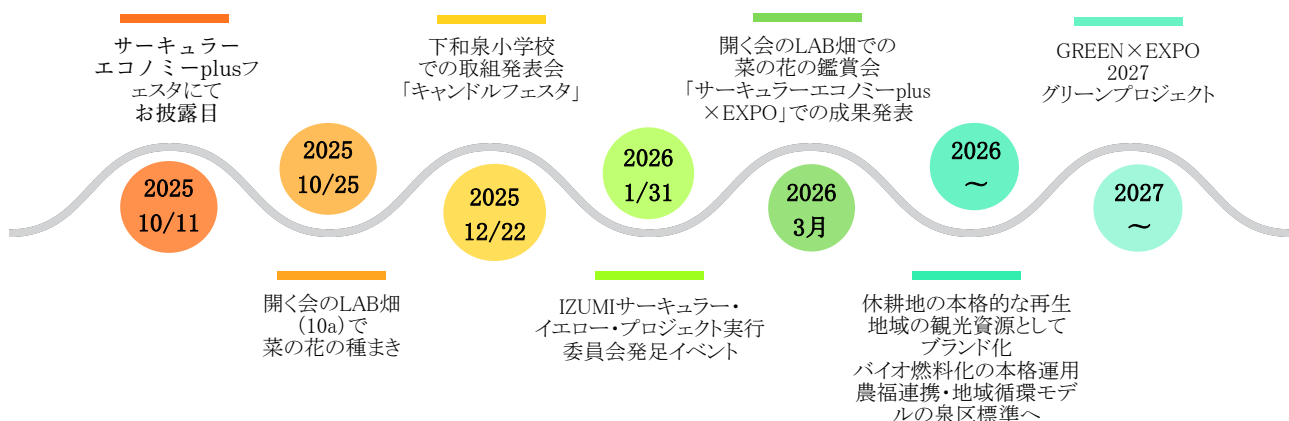
バイオ燃料化の本格運用

農福連携・地域循環モデルの泉区標準へ

●2027 年～（さらなる発展）

GREEN×EXPO 2027

サーキュラー・グリーン・プロジェクト（イエロープロジェクト第二幕）



参考資料

- YouTube チャンネル「横浜なかだTV」：
<https://www.youtube.com/channel/UCZKiW8y4VrYvT6912hJzmKA>
- タウンニュース「下和泉小4年2組児童の学びが実現Eバス新デザインで運行」：
<https://www.townnews.co.jp/0107/2024/03/28/725932.html>
- 中田かわら版 12月号：<https://x.gd/cF2Qn>
- はまふうどナビ 2020 年 10 月号：https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/nochi/nougyou/kouhoushi/hamafoodnavi.files/0433_20220615.pdf
- 月刊「B-maga」2025 年 2 月号「市民メディアの現場から Vol.17」：<https://satemaga.co.jp/b-maga>